

夢を追って

私は、多田野奨学生に選考していただいた頃から変わらない夢があります。「日本と世界をつなぐ架け橋になりたい、日本の魅力を世界中に知ってもらいたい。」選考会の日に行ったこの夢は今も変わりません。大学4年生になった今、この4年間、夢を追って行ってきた活動をこの場をお借りして記録・報告しようと思います。

大学1年生の頃、まずは海外に行ってみなくては始まらないと思い、少し日本人にとってはマイナーな、アイルランドに語学留学をしました。初めての海外で、いきなりのホームステイ1か月。ジャガイモばかりの食生活、走行中に階段の登り下りをしなくてはいけない2階建てバスなど、日本とのギャップに驚きました。メキシコ人の友人もできました。この経験から、海外で生活することの難しさ、海外に出てみなくてはわからない日本らしさ、国籍は関係なく信頼しあえる関係を築けることを知ることができたように思います。

大学2年生では、留学生サポートをしました。これは、長期留学への準備を兼ねたものでした。オランダ人のバディや、アメリカ国務省の留学生派遣プログラムのレジデントアシスタントなどを経験し、海外で暮らす人の生活をどのようにサポートするかということや、言語や国籍に関係なく相手を理解しようとする姿勢が最も大切であることを学びました。

そして、2年生の後半から半年間イタリアのベネチアに留学予定でした。実際は、新型コロナウイルス感染爆発の影響で、1か月半で帰国になりましたが、この1か月半は本当に貴重な経験でした。イタリアを選んだのは、世界中から留学生が集まる国であること、歴史や文化を学ぶ環境が整っていることが理由です。初めてのホームシェアでは、イギリス人、オランダ人、ノルウェー人の留学生との共同生活をしました。生活リズムや文化の違う同世代の人たちとの生活は難しくもとても楽しいものでした。そして、コロナという緊急事態の中、4名それぞれの友達が集まるが多かった私達の家は、留学生が集まり、助け合う場になっていました。海外での生活、そこでの緊急事態など、今となっては貴重な経験で今後役に立つものになったと感じます。

留学が中断してからは、笠岡諸島の地域創生の企画運営を行いました。コロナ禍でアフターコロナを見据えたフォト・絵画コンテストを行いました。実際に足を運ばなくても笠岡諸島を知ってもらい、楽しんでもらえる絵画コンテストは、イタリア留学中に行った美術館のオンライン見学を参考に私が考えたものです。作品がなかなか集まらない時もありましたが、10人のメンバー全員で力を合わせた結果、400点を超える作品が集まり、イベントを成功させたことはとても自信になりました。そして、これまでの国際交流の経験から、外から見ないとわからない良さの発信をすることを実践できた良い経験となりました。これか

奨学生レポート

多田野奨学生 平成30年度 第6号

古田優希(岡山大学4年)

らも地元である香川、そして日本の魅力を世界に発信して、日本のソフト面からの経済発展に貢献していきたいと思います。

それぞれの活動について細かく書くことはできませんでしたが、このような幅広い活動を行うことができたことは、多田野奨学会の皆様のお力添えがあったおかげです。未筆ながら重ねて御礼申し上げますとともに皆様の更なるご発展を心より祈念しております。